

令和3(2021)年度西原村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

西原村地域は、阿蘇外輪山の西斜面に位置した準農村地域で、中山間地域の地形を活かし、甘藷、里芋といった野菜や、果樹、畜産、米等、各地域で多様な農業生産活動が行われている。しかし近年、高齢化や後継者の不足により、農家戸数と作付面積の減少がみられる。また、主要作物である里芋・甘藷については、価格の年次による変動が顕著となっている。また、平成28年4月に発生した熊本地震により、ため池や農業用水路・農地等が被災し、復旧に全力をあげて取り組んでいる状況である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 適地適作の推進

当地域では水はけのよい火山灰土壌の地質であるため地域の特性にあった品目として里芋を重点品目として定めており、水田農業の収益力向上のため、作付けの推進を図る。

(2) 収益性・付加価値の向上

高収益作物への計画的な転換を図るための協議を地域で十分に行い、また地域へ水田農業高収益化推進助成等の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進する。

(3) 新たな市場・需要の開拓

商談会や現地プロモーション活動を活用しながら、新たな需要の拡大を図る。

(4) 生産・流通コストの低減

生産性向上のために「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」や「産地生産基盤パワーアップ事業」等を活用し、施設整備を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 地域の実情に応じた農地の在り方

人・農地プランが策定されている地域については、プランの地域営農組織や認定農業者など地域の担い手への農地集積を進めていく。

(2) 地域の実情に応じた作物・管理方法等の選択

施設園芸が行われていて、水稻作に活用される見込みがない水田を中心に点検を行い、畑地化の取組の重点支援期間であることを周知し、地域の実情に応じて畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

村内の水田（不作付地を含む）について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、野菜、特に里芋を転作作物の主体として位置づけ、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

主食用米については、一戸当たりの水田所有面積が小さく、自家消費用の農家が大半を占めており、産地化は難しい現状であるが、消費者及び実需者に年間を通じて安定した供給が行えるよう、今後も生産者へ協力を求め、需要に応じた生産を推進していく。また、平成 28 年度の熊本地震で農地やダムが被災したことにより、作付面積が大幅に少していたが、予定されている復旧工事が完了すれば震災前の作付面積まで増加する見込みである。

（２）非主食用米

ア 飼料用米ほか

飼料用米、米粉用米、新市場開拓用米、加工用米、備蓄米に関しては、作付がない状況である。

今後状況に応じて生産に向けた取組について検討を行っていく予定。

イ WCS 用稲

平成 22 年から平成 27 年にかけて、畜産農家を中心に自給粗飼料の確保の観点から、作付が拡大していたが、熊本地震の影響により、一時作付面積が減少した。しかし、農地の復旧と共に作付面積は再び拡大傾向にあるため、産地交付金を活用し、農家と畜産農家で連携した資源循環の取組も推進し、今後も生産性の高い畜産経営に努め、経営コストの低減を図る。

（３）麦、大豆、飼料作物

麦に関しては、西原村地域では作付がなく、生産に向けた取組について今後検討を行っていく。

大豆に関しては現行の制度を活用し、作付面積の確保及び拡大を図る。

飼料作物については、一部の農家（主に畜産農家）では、水田を利用し、年間を通して、イタリアンライグラスなどの飼料作物の作付を行っている。また、熊本地震後は水が供給できない水田に基幹作として作付が拡大している。農家と畜産農家で連携した資源循環の取組や担い手による二毛作の取組についても推進し、今後も、現行の制度を活かし、飼料作物の作付面積の拡大を図る。

（４）そば、なたね

そば、なたねについては作付がなく、今後は生産に向けた取組の検討を行っていく予定である。

（５）高収益作物

転作水田においては、振興作物である里芋を中心に JA・直売所向けの野菜等が作付けされている。小規模の水田において、これら作物が耕作放棄地の発生の防止等に大きな役割を果たしている。

なお、特に振興を図っている「里芋」については重点品目に位置付け産地交付金を活用し、作付拡大を推進する。

その他野菜についても同様に作付面積の維持・拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	82ha 391 t	100ha 525 t	100ha 525 t	100ha 525 t
備蓄米	0.00	0.00	0.00	0.00
飼料用米	0.00	0.00	0.00	0.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	0.00	0.00	0.00	0.00
WCS用稲	48.99	50.00	50.00	50.00
加工用米	0.00	0.00	0.00	0.00
麦	0.00	0.00	0.00	0.00
大豆	0.29	1.50	1.50	1.50
飼料作物	41.79	42.00	42.00	42.00
・子実用とうもろ こし	0.00	0.00	0.00	0.00
そば	0.00	0.00	0.00	0.00
なたね	0.00	0.00	0.00	0.00
高収益作物	31.63	56.00	57.00	59.00
・里芋	11.43	12.00	13.00	14.00
・その他野菜	20.20	20.00	20.00	20.00
・花き・花木	0.00	0.00	0.00	0.00
・果樹	0.00	0.00	0.00	0.00
・その他の高収益 作物	0.00	0.00	0.00	0.00
その他	1.39	0.00	0.00	0.00
・その他	1.39	1.00	0.00	0.00
畑地化	0.00	0.00	0.00	1.00

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 525kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績） 令和2年度	目標値 令和5年度
1	里芋	重点品目作付（里芋）への助成（基幹）	作付面積	11.43 ha	14.00 ha
2	飼料作物	飼料作物二毛作への助成（二毛作）	作付面積	28.50 ha	30.00 ha
			水田利用率	72 %	75 %
3	飼料作物	資源循環への助成（耕畜連携）（基幹・二毛作）	取組面積	14.00 ha	15.00 ha
			実施率	11 %	12 %
4	野菜	地域振興作物への助成（基幹・二毛作）	作付面積	30.73 ha	37.50 ha